

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月23日

【評価実施概要】

事業所番号	3472500614		
法人名	社会福祉法人 しらゆり会		
事業所名	グループホーム 長寿苑		
所在地 (電話番号)	東広島市西条町馬木1660-2		(電話) 082-425-2000
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成21年3月18日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】(21 年 3 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 12 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	13.1人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	<u>新築</u> / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての	2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有(円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,380 円	

(4) 利用者の概要(3 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名
要介護3	5 名	要介護4	名
要介護5	5 名	要支援2	名
年齢	平均 85.8 歳	最低 71 歳	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 三永会・山崎神経科内科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム長寿苑は、関連の7事業所とともに地域での福祉・介護の拠点として、地域全体の介護の質を高める役割を担い、また家族の声と力を活かし自然や地域の力を借りて、多くの入居者の方々が長年住み慣れた地域の中で、尊厳が確保され安心して、その人らしく生活を送ることへの取り組みがなされている。また、管理者と全職員はホーム独自の理念の下で入居者一人ひとりの生活歴をしっかりと把握し、また、過去の経験を活かしながら一つずつ本人のペースに合わせながら、本人の気持が動くシナリオで支援に取り組まれている。このことや、開始時から目新しさよりは改善の積み重ねを行われてきたことにより、入居者の方々の安心されている姿とホームの中が家族的な雰囲気となっていることが伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題はなかったが、入居者の方々の平均年齢が増す中で健康の維持と入院によるダメージを極力防ぐため、関連施設の看護師と連携を取りながら、また看護師から急変時の応急処置対応の指導をうけるなどして、今以上の健康・医療面での安心を確保されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	事業所全体で自己評価の目的や活用方法をよく理解した上で全員で取り組んでおり、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議には東広島市の担当者や民生委員等が参加して定期的開催されており、毎回議題を定めて多くの率直な意見をひきだし、改善にむけた具体的な取り組みにつなげている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	常日頃から、事業所側や職員から運営推進会議や家族会及び家族等の訪問時等のあらゆる機会を捉えて、意見等を積極的に聴く努力や場面作りや雰囲気作りを行っている。出された意見や要望等はミーティング等で話し合い、質の向上に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	同じ敷地内にある施設と連携しながら、定期的な近隣の小学校や保育所との交流や、お寺さんからの法話を聞いたり、地域の人達がボランティアとして活動しにきてくれるなど、支援と理解が得られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の方々が、地域のなかでその人らしく暮らし続けることを支えていくことを謳ったホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は自分とともに成長し、育てていくものだと全職員が意識しながら、支援に取り組んでいる。		例えば理念を掘り下げて職員全員で話し合い、わかりやすい目標を策定し、更なる具体的な意見の統一を図ることが期待されます。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者一人ひとりの「何々したい」というニーズの実現化のために、事業所の生活圏の中にある小学校や幼稚園、お寺さん、商店等と関係を持ち、使いながら、また事業所も地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は管理者、職員ともに十分理解し、全員で取り組んでいる。前回の評価の結果は職員全員に報告し、改善に向け努力している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されており、行政の職員、民生委員等、幅広い立場の人に参加を求め、率直な意見をひきだし、改善にむけた取り組みにつなげている。また、サービス評価と運営推進会議を結びつけて質の確保を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の関係者とは常日頃から母体の法人を通じて、また運営推進会議の機会を捉えて事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら関係づくりを積極的に行っている。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回、暮らしぶりを伝えるため、入居者が作成した絵手紙を家族へ送っている。また、事業所から家族に対し、あらゆる接点で情報提供を積極的に行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、家族の来訪時等から得られた意見や要望等は、ミーティングで話し合い、反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常日頃から、各ユニットの入居者と職員との交流を行いながら馴染みの関係作りを図っており、やむを得ない異動による入居者へのダメージを最少にするよう心掛けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修等には、なるべく多くの職員が計画的に受講できるようにしている。また、研修内容を全職員が共有できるように、報告する機会も設けられている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所外での研修に参加した機会を捉えて、他の事業所の人材と交流を持つことにより、サービスの向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に、希望される方にはお試しとしてショートステイや、事業所を見学してもらったり、遊びに来てもらったりしながら、本人が職員やサービスの場に徐々に馴染みながら安心し、納得しながらサービスを利用できるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>例えば、配膳や掃除等それぞれ入居者の持っている力を発揮してもらおう場面を提供できるよう配慮している。入居者の話を丁寧に聞いて、本人の思いと一緒に共感しようとする姿勢も伺えた。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの暮らしのニーズの把握に関心を払いながら、アプローチを一つひとつ丁寧にしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス計画書へは本人の思いや希望をできるだけ盛り込んでおり、家族等の要望や意向等は来訪時や電話連絡時に聞きだし、反映させている。また、本人の意向のニュアンスが伝わりやすいように、できるだけ本人の言葉をそのまま計画書にのせるようにしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は定期的に見直しをし、また本人の状態が変化した場合はその都度行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者一人ひとりの暮らしのニーズを把握しながら、地域のいろいろな資源を組み合わせその必要に応じていく取り組みを行っている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関もあるが、入居者のこれまでのかかりつけ医や医療機関があれば、本人や家族の希望に沿って受診できるように支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人・家族から重度化した場合の意向を聴き、話し合うようにしている。状態に変化があつたとき、重度化した場合には本人・家族の意向を踏まえて、他サービスの利用も考えながら再度話し合うようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所全体で人の権利や尊厳について確認しながら、対応の徹底を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの日常生活の日課や望んでいるペースに合わせた暮らしの支援に職員はあわせながら、個別性のある支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、晩酌の日、おはぎづくりの日などを企画して楽しんでいる。入居者の好みを把握し、できるだけ希望に沿いながら、また味付けや盛り付け、配膳などを入居者と一緒に行き張りあいを持っていただくようにもしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	生活習慣やその日の希望にあわせて入浴できるように柔軟な支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前の個々の生活習慣を把握して、洗濯物をたたんだり、掃除や食器洗い等をお願いしたり、趣味を楽しんでもらうなどして暮らしを楽しんでもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人にあわせた移動の配慮をしながら、近くへの散歩だけでなく、週に一回は買い物や、あるいはドライブ等に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は一人ひとりの外出の傾向やクセをつかんで、職員同士の声かけや連携プレーで対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行っている。同じ敷地内の同法人事業所とは緊急時・災害時の連絡体制も取られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活習慣や日頃の様子を観察しながら、一人ひとりにあった個別の食の支援を行っている。また、定期的に管理栄養士の専門的なアドバイスをもらっている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員全員で自らの五感を活かしながら、入居者一人ひとりの感覚や価値観を大切にして居心地良く入居者が自分なりの活動がしやすい場になるようにしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭より使い慣れたものや、家族の写真等を持参していただき、その人が大切にしていたものに囲まれ、その人らしい居心地のよい暮らしの居室作りを支援している。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 長寿苑 二階 かめ

評価年月日 21 年 2 月 25 日

記入年月日 21 年 2 月 25 日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 サービス計画作成担当者 氏名 宮浦 亮

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人全体の理念に沿って、グループホームが目標としての理念を持っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日々の実践の中で困った時、理念に立ち戻って話しあっているが、一人一人が理念を知り、それを活かしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	年2回広報誌「しらゆり」や、年4回の家族会等で理念の啓発・広報に取り組んでいる。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所の人と日常的にあいさつし、付き合える様、努力している。		地域の行事に参加できるよう問いかけて行きたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	近隣の小学校・保育所・幼稚園などと定期的に交流を持っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	グループホームとしての力を活かした地域貢献には、今のところ取り組んでいない。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を職員全体で計画的・継続的に取り組んではいないが、都度確認はしている。		ケース会議等で再確認を行いたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催しておりサービスの評価への取組み状況等の報告や話し合い等を行い、メンバーより意見を頂きサービス向上に努めている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	行政からの働きかけはないが、研修等の参加はしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職場内での伝達研修を実施している。家族の意向も確認している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職場内研修で虐待・拘束の研修を受けている。身体面より精神面の虐待になるような言葉かけ等見られる事がない様、都度対応策をとっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>書面を用いて一通り説明し、理解・納得して貰えるようにしている。入所時の説明以外にも、都度相談にのっている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。</p>	<p>日々利用者の思いや意見を表にできる様、心掛けています。出された意見・思いは、カンファレンス・ミーティングで話し合い、解決に向けています。</p>		
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月個別に文書で報告している。又、利用者自身で書いた絵手紙に近況報告として送っている。電話や面会時の報告もマメに行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱の設置・家族会・面会時など意見を求めたり、困り事がなければ都度聞いている。又、4月に家族宛に意向調査を実施。得られた意見は前向きに受け止め、質の向上に活かしている。又、その回答も開示している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者は運営や管理について職員の声に耳を傾け、職員の意見を反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者の重度化に伴い、スタッフの心身負担も大きくなりつつあるが、看護師・パートにて人手が不足時に対応できる様にしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動に関する苦情・意見はよく出るが、配置転換に関しては、明確な理由を話し理解を得ている。		
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間計画に基づき、職場内研修に参加している。 ホーム内の勉強会を月1回実施している。 法人外研修にも積極的に参加している。		働きながらのトレーニングはあまりできていない。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	実習施設の登録をしており、色々な事業所の職員との話はできている。		現場は日々の業務に追われており、今後時間的余裕を持って勉強会などに参加させたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の私物がおける場所の配慮・仮眠をとる場所や寝具・冷暖房の配慮もなされている。又、ストレスの完全把握は難しいが、極力これを軽減する様、努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	研修に出にくい状況下にあるも、中でも認知症介護の実践者研修を受講したりスタッフの質の向上に向けた努力はしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	本人が見学・相談に来た際、不安・困り事をよく聞いて安心してもらえる様努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族が相談に来た際、話を良く聞き、思いや要望等受け止める努力をしている。又見学などもしてもらっている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	話の内容次第で居宅介護支援事業所を紹介することはある。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	必ず見学・体験利用等してもらい、納得してもらった上で開始している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごしており、利用者から教えを受けたり、助けてもらったりしている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族との密接なコミュニケーションがとれる様、居心地の良い丁寧な対応を心掛けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人の様子を毎月1回絵手紙にして送ったり、特変があれば電話で報告する等、密に行っている。又、家族会の時にビデオ・写真等を見てもらっている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今までのなじみの人が訪問されたり、手紙や電話でのやりとりがなされ、つながりが保たれる様、支援に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	仲の良い人同士が過ごされる様配慮したり、利用者同士が助け合ったりしている。 又、思い思いに過ごせたり、トラブル回避のため距離をおく等の配慮をしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後も相談に応じたり、継続的な係わりを持っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り利用者の思いや要望にしっかりと耳を傾けてその把握に努めているが、困難な場合、介護者側の視点でケアをしていることがある。又、家族からの情報提供や日々の言動を観察し意向を汲み取る様努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人からも生活暦等聞いたり、家族からも情報をもらいケアに活かしていける様努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者の1日の暮らし方や生活のリズム等、大体把握できている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の声や家族の意向ができるだけ反映された介護計画になるようにしている。又、利用者によっては普段の言動等観察し、意向が反映できる様努めている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は設定された期間ごと、又、1ヶ月ごとの細かい評価を実施している。状態の変化が生じた場合も、変更時期が多少遅れることもあるが、現状に即した新たな計画を作成している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	情報共有ができるように個別に記録を行っている。スタッフの気づきやアイデア等も個別ファイルに記入し、介護計画に活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者の状態変化や重度化に伴い、医療連携体制を活かして早めに医療処置を行い生活の継続をはかったり終末期のケアに対応できる様支援している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防については年2回署員に参加してもらい、訓練をしている。又、折り紙教室の先生に来てもらい一緒に折り紙をしたり、生花クラブでの生花に取り組んだりしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	介護保険対応施設なので他のサービスの利用は取り組んでいない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	包括支援センターは参加が難しく協働はできない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医について入所時、家族本人の希望をきいて決めているが、苑に任せるとい方が殆どの為、本人・家族の同意の上、事務所の協力医療機関の医師がかかりつけ医になる事が多い。しかし定期受診については希望の機関を受診できる様支援している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	週2回、認知症専門医による往診をうけており認知症の方への治療や指示アドバイス等熱心に対応してもらっている。家族・スタッフ共連携がとれ、信頼関係が確立されている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	日曜をのぞく月～土まで利用者の日常の健康管理や処置、リハビリ等行い、利用者の心身状態の把握ができています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には利用者の病状の把握や、治療がスムーズに進む様、その人のケア上のポイントについて情報交換やケアの協力をしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	重度化や終末期のあり方については早期から本人や家族に方針を伝えていく。又、重度化・終末期においても家族や事業者・医師等と話し合い、方針の統一がはかれる様努めている。		
48	重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化や終末期に向けたチームの支援は行っている。重度化が進む中で、チームへの負担がかかり過ぎない様考えている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	やむをえず、別の居所へ移り住む際は、家族と関係者で十分な話し合いや情報の提供を行っている。(ショートステイ・特養等)		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 </div> 1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	利用者に対する声かけや対応についてスピーチロックやプライバシーを損ねるようなことはしない様注意している。又、書類の取り扱いを慎重に行ったりシュレッダー等で完全に消去している。		雇用契約時に個人情報についての契約書ももらっている。
え 51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	意思表示できない利用者に対しても言動を慎重に観察し、真意を汲み取る様努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	なるべく利用者一人ひとりのペースに合わせてケアを心掛けているが、事業所の業務が優先になったりすることがあり、利用者のペースに沿ったケアが難しくなりつつある。		A D L がそれぞれに異なっているためできるだけ希望にそえるよう取り組みたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	自分で衣類等選べる人は自分で選んでもらっているが自分で選べない人はスタッフ側がその人にあった雰囲気大切に服装を選ばせ支援している。		現在、理・美容院への外出を希望される人がいない。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭き・盛り付け・配下膳・食器洗い等、食事一連の動作ができる利用者と一緒にしている。 又、選択メニューや晩酌等、食事が楽しめる工夫をしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	定期的に嗜好調査を行って、本人の好む物、好まない物の把握に努めている。又、嫌いなものがメニューにでた場合、他の物を作る等、柔軟に対応している。		原則、飲酒はお断りしている。(晩酌の日、誕生日会を除いて)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導して気持ちよい排泄ができる様、支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	原則毎日入浴可能であるが、本人の状態に合わせている。入浴拒む人には無理強いすることのない様、気持ち良く入っていただけ様な声かけの工夫をしている。		汚れたらシャワー浴をすぐ行える様、支援している。又、重度の利用者には機械浴で入浴してもらっている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の個別の疲れ具合に合わせて休息したり、適度な昼寝をしてもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴やその人の得意なことを見極め、役割や出番を作っていける様支援している。 (食器洗い・掃除・洗濯たみ・野菜きり・配下膳等)		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理ができる利用者には、手持ちの小遣いとして所持してもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	日常的に散歩や週1回の買い物(冬期を除く)又は花見ドライブ・外出ドライブ・喫茶ドライブ等戸外に出かける機会をつくり気分転換を図っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	外出については本人の希望通り、出かけられる様支援していく努力をしている。又、年に何回か遠距離への食事会・おやつ時間を設け、家族の参加も呼びかけている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙を毎月1回家族宛に送ったり、電話は本人希望時にかたり、かかってきたときは電話口まで来てもらい話をしてもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>来客時、お茶を用意し、対話に努め常に心地よく居てもらえる様配慮している。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束のない様、日頃から実践に取り組んでいる。 又、拘束委員会に参加したり、研修を行っている。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関は自動ロックになっているが、夏場は開放している。構造上ロックはかかるが、利用者への心理的圧迫は特でない様子。利用者、家族によっては夜間のみ施錠している。(希望があった場合)</p>		
67	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>安全確認には十分留意しており、見守り・声かけ等で事故防止に心掛けています。特に夜間スタッフが1名のため、再三巡回している。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>全て取り除いたりせず、本人の状況を見ながらケースバイケースで対応している。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>事故やヒヤリハットに関する報告・記録はきちんと整理・保存し、スタッフ間では事故防止・事故の減少に繋がる様、情報共有に努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	緊急事態対応についてマニュアルを整備している。定期的な訓練はしていない。		職場内研修で、全ての職員が応急手当等の訓練に取り組んでいる。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、消防の協力を得て避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方等、訓練を定期的に行っている。全職員がマニュアル内容を把握できる様、勉強会を開催している。又、いざという時のために地元の消防団と連携をとっている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	起こりうるリスクを家族に説明し、理解を求めている。ただ、事故等実際におきてみないと理解しづらいため、理解を得られる様、密に対話していくことに努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの普段の様子をよく知り、常に変化・異常の発見に努めている。毎日のバイタルチェック・表情・顔色の変化等、異常のサインを見逃さない様気をつけている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬管理は薬剤師を中心にスタッフ全員で行っている。処方箋のコピーをケースごとに整理し、内容が把握できるようにしている。服薬時には確実に服用できているか注意している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	基本的に自然排便を目指し、毎日の水分補給を十分行い、ヨーグルト・きなこ・ゼリー等食べてもらっている。排便表のチェックをし、コントロールしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、利用者にあった口腔ケアをしている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	カロリー過不足や水分不足にならない様、スタッフ全員が意識をもって必要な量が摂取できる様支援している。食事・水分量を毎日記録している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成しており、年間計画で勉強会を開催している。感染症流行時には面会者にも協力を求め、感染予防に努めている。(手洗い・うがい等)		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板・包丁・食器類は消毒・洗浄に心がけ、衛生管理を行っている。 まな板・包丁・布巾(毎日洗浄・消毒) 食器(消毒を年2回実施)		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ハード面での限界はあるが、玄関に生花や利用者の作品等、掲示しており出入りしやすい様な雰囲気作り心がけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は明るく創作物などの壁画があり、見晴らしも良い。ご飯の炊ける匂い・季節の花々・茶碗を洗う音等、五感に働きかける様々な刺激を生活空間の中に取り入れている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下の一角にイスやテーブルを置き、一人で過ごしたり仲の良い利用者同士で談話する等の居場所がある。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室内にはその人らしい物品・創作物、装飾品、家具等持ち込まれ、居心地の良い空間になる様工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	適宜、換気を行い室温調節もこまめに行っている。暑がり、寒がりも考えて調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーはもちろん、個々の状態に合わせて個別の設備、(ドアをカーテンに、洋式トイレの便座を本人に合わせた高さに、イスを本人に合わせて)等、身体機能に応じた対応に努めている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自分の居室やトイレが分からない人のために目印や名前を掲げたり文字の大きな時計や日めくりカレンダー等目立つ場所に設置している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	利用者がベランダから水やりができる様にプランターで野菜・花等育てている。又、苑庭の畑で野菜、果物等植え、できる利用者が世話している。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 長寿苑 三階 つる

評価年月日 21 年 3 月 25 日

記入年月日 21 年 3 月 25 日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 計画作成担当者 氏名 小山 ひとみ

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人全体の理念に沿って、各事業所が目標としての理念を持っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日々の実践の中で困ったときは、理念に立ち戻って話し合いをする努力はしているが、職員一人ひとりが理念の中身を知り、日々の実践の中でそれぞれを意識して活かしていけるかどうかの確認はできていない。		何を大切に利用者に向き合うか、日々話し合い確認していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	年2回の法人全体の広報誌「しらゆり」や、年4回の家族会等で理念の啓発・広報にとりくんでいる。		家族や地域の人々への働きかけを増やしていきたい。

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所との付き合いを求めているが、日中留守の家が多くなかなか日常的な付き合いができない。		地域の行事を把握していきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	近隣の小学校・保育所・幼稚園等と定期的な交流を持っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	グループホームとしての力を活かした地域貢献としての取組みはしていない。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を職員全体で計画的・継続的に取り組んでいないが、都度確認はしている。		ケース会議等で議題にあげて再確認したい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を2ヶ月に一度開催しており、委員さんの意見を取り入れる努力をしている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	行政からの働きかけはないが、市町村の研修にはできるだけ参加している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職場内での伝達研修を実施している。家族の意向も確認している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	グループホーム内の会議中で学ぶ機会を持ち、虐待が見過ごされる事のないよう、職員一人ひとりが意識し、ケアにあたっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時にきちんと説明し、又都度相談にのっている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	意見箱の設置や家族の面会等を通して意見を聴く機会を設け、サービスの向上に活かす努力をしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月個別に文書で報告している。又、利用者自身で書いた絵手紙に近況報告等も寄せている。電話や面会時での報告もマメにしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置すると共に、家族会の時や面会されたときなど意見を求めたり、お困り事がないか都度お聴きしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は運営や管理について職員の声に耳を傾け職員の意見を反映させている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務時間を見直すと共に必要な時間帯に職員を確保する等の勤務調査に努めている。		看護師・パートにて人手不足時に対応できるようにしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動に関しての苦情やご意見はよく聴かれますが、配置転換に関しては、明確な理由をお話した上でご理解を頂いている。</p>		<p>極力利用者と職員との馴染みの関係作りに心掛けている。 ただし、職員と利用者との必要な一線は残すよう取り組んでいる。</p>
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>内外の研修にはできる限り参加させるようにしている。</p>		<p>働きながらのトレーニングはあまりできていない。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>実施研修施設になっておりいろいろな事業所の人と話はできるがネットワークは作っていない。</p>		<p>現場は日々の業務に追われており、今後時間的余裕を持って勉強会などに参加させたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>できる限り話を聞くようにしている。仕事以外のストレスは把握しにくい。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>資格取得の研修にはできるだけ参加してもらい、他者との関わりの中での向上心を持ってもらえるよう努力している。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>ご本人さんが見学・相談に来られた際、不安に思われていること・お困りの事等よくお聴きして安心して頂けるよう努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族が相談に来られた際は、お話を聴き、思いや要望等受け止める努力をしている。 又、見学等もしてもらっている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	話の内容次第で居宅を紹介する時はある。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	いきなり入所ということはせず、必ず体験利用をして頂き、納得してもらった上で開始している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごす努力をしており利用者に助けてもらったり教えてもらったりしている。		一方的な縦の関係がないか、一人ひとりの職員が意識をもって日々利用者に関わっていくよう心掛けていく。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族との密接なコミュニケーションがとれるよう、居心地の良い丁寧な対応を心掛けている。 又、職員と家族の一定距離を保つよう努力している。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人の様子を毎月 1 回絵手紙にして送ったり、変わったことがあれば電話で報告する等、密に行っている。又、家族会の時にビデオ等見られている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>今までの馴染みの人が訪問されたり、手紙や電話でのやりとりがなされ、つながりが保たれるよう支援に努める。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>仲の良い人同士が過ごせる配慮をしたり、利用者同士助け合ったりされている。又、思いおもいに過ごせたりトラブルを回避するため距離をおく等の配慮をしている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>退所された後も、相談に応じ継続的な関わりを持っている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> </div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>できる限り利用者の思いや要望にはしっかりと耳を傾けてその把握に努めているが、困難な場合、介護者側の視点でケアをしていることがある。</p>		<p>その人らしい生活が送っていただけるように家族からも情報提供して頂いたり、日々の行動や表現から汲み取る努力をしている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>本人からも生活暦等をお聴きしたり、ご家族からも情報を頂いてケアに活かしていけるよう努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>利用者の一日の暮らし方や生活のリズム等大体把握できている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の声や家族の意向ができるだけ反映できる介護計画となるよう努力している。		全員の利用者・家族に意見が頂けるようしていきたい。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は設定された期間ごと、又一ヶ月ごとの細かい評価を実施している。状態の変化が生じた場合も変更時期が多少遅れる事はあるが現状に即した新たな計画を作成している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	情報共有ができるように個別に記録を行っており介護計画に活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	看取りやターミナルケアを含むその時の状況に応じた支援をしている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防については、年2回署員に参加していただいて訓練をしている。折り紙・生花クラブなどのボランティアを受けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	介護保険対応施設なので他のサービス利用はない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括センターとの連携はない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医については入所時に家族・本人の希望を聴いてかかりつけ医を決めているが、宛にお任せするという方が大半なため、本人・家族の同意と納得の上、事務所の協力医療機関の医師をかかりつけ医となっていることが多い。		定期受診については、家族・本人の希望される医療機関へ受診できるよう支援している。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	週2回の認知症の専門医による往診を受けており認知症の方への治療や指示・アドバイス等熱心に対応してくださっている。家族やスタッフとも連携をとり信頼関係が確立できている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	日曜日を除く、月～土まで利用者の日常の健康管理や処置・リハビリ等行い、利用者の心身状態の把握が出来る。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入所時には利用者の病状の把握や治療がスムーズに進むよう、その人のケア上のポイントについて、情報交換や、ケアの協力(食事介助・話相手)をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化や終末期の有り方については早期から本人や家族に方針を伝えていっている。又、重度化・終末期においても家族や事業者・医師等と話し合い方針の統一を図れるよう努めている。</p>		<p>現在重度化が進んでおり、最期をどのように迎えられるか密な話し合いを頻繁にもって行きたい。</p>
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化や終末期に向けたチームの支援は行っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>やむをえず別の居所へ移り住む際は家族と関係者で十分な話し合いや情報の提供を行っている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>日々、利用者に対する声かけや対応についてスピーチロクやプライバシーを損ねるようなことは極力しないように注意している。</p>		<p>個人記録等、個人情報に係わる書類等の取り扱いを慎重に行ったり、シュレッダー等で完全消滅している。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>意思表示ができない利用者に対してもシグナルキャッチして、真意を汲み取っていきこうと努めている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者一人ひとりのペースに合わせたケアを心掛けている。</p>		<p>なるべく利用者の訴えに耳を傾け、気の済むまで話を聴きたいが急変・特変もあり、希望通りにはいかない場合も多くなっている。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	自分で衣類等選べる人へは、自分で選んでもらっているが、自分で選べない人へは、スタッフ側がその人にあつた雰囲気や大切にしたい服装を支援している。		現在、理・美容院への外出を希望される人はいない。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭き、盛り付け・配膳・茶碗洗い・食器洗い等、食事一連の動作をできる利用者と一緒にしてもらっている。		選択メニュー・晩酌・お花見弁当・駅弁・外食等、食事が楽しめるよう工夫している。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	定期的に嗜好調査を行って、本人の好むもの、好きな物の把握に努めている。又、嫌いな物が献立に出た場合、他の物を作る等、柔軟に対応している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導して気持ちの良い排泄が出来るよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	原則毎日入浴可能であるが、本人の状態に合わせている。入浴嫌いな人には、無理強いする事のないよう気持ちよく入っていただけるような声掛けの工夫をしたりしている。		汚れたらすぐシャワー浴も行えるよう支援している。 又、重度の利用者の方には機械浴で入浴してもらっている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の個別の疲れ具合に合わせて、休憩を取り入れたり、適度な昼寝をしてもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴やその人の得意なことを見極め、役割や出番を作っていけるよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理ができる利用者には, 手持ちの小遣いとして所持してもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	日常的に散歩や, 週一回の日常買い物, 又春にはドライブ・外食ドライブ・喫茶ドライブ等戸外に出掛けられる機会を作り, 気分転換を図っている。		天気の良い日にはホームの周りを日常的に散歩している。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	外出については, 本人の希望通り出掛けられるように支援していく努力をしている。又, 年に何回か遠距離への食事会・おやつ時間を設け, 家族の参加もお願いしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙は, 毎月1回家族宛に送ったり電話は本人希望時にはかけた時, 掛かってきた時は, 電話口まで来てもらって話をしてもらっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	来客時は, お茶を用意し, 対話に努め, 常に心地良くしていただける様配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のないよう日頃から実践に取り組んでいるし、研修も行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は、自動ロックになっている為、通常は鍵がかかっている。夏場においては玄関ドアを開放している。		利用者本人、又は家族が施錠を望まれた時は、部屋に鍵をかけるときがある。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	安全確認には十分気をつけており、見守りや声かけ等で事故防止に心掛けている。特に夜間時はスタッフの数が一人の為に再三巡回している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	全てを取り除くようなことはしないで、本人の状況を見ながらケースバイケースで対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故やヒヤリハットに関する報告・記録はきちんと整理・保存し、スタッフ間で未然に事故が防げ、事故の減少につながるよう情報共有に努めている。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	緊急事態対応についてマニュアルを整備している。しかし、全職員が応急手当や初期対応が出来るよう努めている。		職場内研修で全ての職員が応急手当等の訓練に取り組んでいる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、消防署の協力を経て、避難訓練・避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。		勉強会等開催して、マニュアルを頭に入れておく。いざという時地元の消防団と連携をとっている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	起こりうるリスクを家族へ説明し、理解を求めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの普段の様子を知り、常に変化や異常の発見に努めている。毎月のバイタルチェック・表情・顔色の変化など異常のサインを見逃さないよう気をつけている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋のコピーをケースごとに整理し、内容が把握できる様にしていえる。又、薬剤師とも連携をとり解らないことがあれば何時でも聴ける状態にしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	基本的に自然排便を促せるようにし、毎日ヨーグルトやきなこ、ゼリー等を食べてもらっている。毎日排便表のチェックをしてコントロールしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、利用者に合った口腔ケアを実施している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	カロリー不足や栄養の偏り、水分不足が起こらないよう、スタッフ全員が意識をもって必要な食事や水分が摂取できるよう支援している。食事・水分の摂取量を毎日記録し、把握に努めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症マニュアルの作成を実施しており、年間計画で勉強会を開催している。感染症の流行時には感染予防に努めている。(手洗い・うがい)		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板・包丁・食器類等は、消毒・洗浄に心掛け衛生管理を行っている。 まな板・包丁・布巾・・・毎日洗浄 消毒実施 食器・・・消毒年2回実施		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には生花や利用者の作品等を掲示し、入りやすい雰囲気作りには心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間はとても明るく創作物などの壁画があり、見晴らしもよい。ご飯の炊ける匂い、季節の花々、茶碗を洗う音等、五感に働きかける様々な刺激を生活空間の中に取り入れている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下の一角に椅子・テーブルを置き、一人で過ごしたり仲の良い利用者同士で談話する等の居場所があり、リビングにはソファや横になれる畳のスペースもある。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	それぞれ各居室内にはその人らしい物品や創作物・装飾品・家具等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	適宜、換気を行い、室温湿調整もこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーはもちろんだが、一人ひとりの利用者の状態に合わせて個別の設備(ドアをカーテンにする。普通の洋式トイレを洗浄トイレに。フローアを畳にする)にするなど、身体機能に応じた対応に努めている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自分の居室がわからない、トイレがわからない等の人のためにわかりやすく入り口に名前を掲げ、目印にしたり大きな文字盤の時計や大きな日めくり暦も居室の目に付くところに設置している。		新たに混乱や失敗が生じた場合は、都度スタッフでその解決策を話し合うようにしている。
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	利用者がベランダから水やりができるようにプランターで野菜・花等を育てている。又、苑庭の畑で果物や野菜を植え、出来る利用者に世話をしてもらっている。		